

令和元年度

視察研修報告書綴

研修日 令和2年1月28日（火）

視察研修地 鳥取県西伯郡日吉津村

研修日 令和2年1月29日（水）

視察研修地 島根県邑智郡美郷町

基山町議会

広報広聴常任委員会

令和元年度 広報広聴常任委員会 視察研修報告

1 研修日程、研修先及び件名

- (1) 1月28日 鳥取県西伯郡日吉津村
議会広報編集・議会報告会について
- (2) 1月29日 島根県邑智郡美郷町
議会広報編集・議会報告会について

2 参加者 広報広聴常任委員会 6名 議会事務局 1名 議長 1名 計 8名

委員長	松石 健児
副委員長	大山 勝代
委員	重松 一徳
委員	末次 明
委員	天本 勉
委員	中村 絵理
議長	品川 義則
議会事務局	西村 美香子

3 研修報告

- (1) 1月28日 鳥取県西伯郡日吉津村
議会広報編集・議会報告会等について

【研修目的】

全国町村議会議長会の平成29年度町村議会広報表彰(第32回広報コンクール)において奨励賞(編集・デザイン部門)を受賞(議会ひえづNo.148号)。また、令和元年度第27回鳥取県町村議会広報コンクールにおいて優秀賞を受賞(議会だより157号)。両コンクールにおいて、「見やすさ」「編集力」等が評価されており、基山町議会だよりでも一番注力しているこの点について、具体的な編集方法を学ぶこと、また議会報告会が各自治会に出向く方式についても、実施内容について研修することを目的とした。

【日吉津村の概要】

鳥取県の西部に位置し、北は日本海、米子市に三方を囲まれ、面積4.2km²、人口約3,500人、1220世帯、大手製紙工場を中心としたコンパクトな村である。財政基盤は比較的安定(財政力指数0.71点 同基山町0.7点)しており、インフラ整備も整っている。また、定住促進にも力を入れており、同村内に山陰最

大のショッピングセンターもあることから新しい住宅地が多い。

【研修内容】

- ・議会広報の編集体制、編集方針、写真やレイアウトなど、企画から発行までの議会広報全般について。
- ・議会報告会「ぎかい懇談会」の内容、報告会場の選定等について。

【研修対応者名】

広報広聴常任委員会	委員長	前田 昇
	副委員長	松本 二三子
	委員（議長）	井藤 稔
	委員（副議長）	河中 博子
	委員	長谷川 康弘
	事務局長	高森 彰
	書記	森下 瞳

(2) 1月29日 島根県邑智郡美郷町
議会広報編集・議会報告会等について

【研修目的】

全国町村議会議長会の平成30年度町村議会広報表彰（第33回広報コンクール）において奨励賞（言語・文章部門）を受賞（美郷町議会だより みさとNo.54号）。当コンクールにおいて、「わかりやすい語彙、文法、言い回し」「要約力」等が評価されており、基山町議会だよりでも参考にしたいこの点について、具体的な取り組みを学ぶこと。また、議会だよりモニター制度を導入した経緯と活用方法、議会報告会の円滑な開催方法等についても研修することを目的とした。

【美郷町の概要】

島根県の中央部に位置し、雄大な河川・江（ごう）の川が蛇行しながら町を貫流している。かつては石見銀山街道の一部、舟運の要地として栄えた。面積約283K㎡で町域の大半を森林が占め、豊かな自然と温泉に恵まれている。人口は約4,600人、世帯数約2,200戸。

【研修内容】

- ・議会広報の編集体制、編集方針、写真やレイアウトなど、企画から発行までの議会広報全般について。

- ・ 議会報告会の内容、テーマ設定、報告会場の選定等について。

【研修対応者名】

議会広聴広報委員会	委員長	波多野 康博
	副委員長	日高 学
	委員	山本 幹雄
	委員	藤原 修治
	委員（副議長）	福島 教次郎
	委員	中原 保彦
	事務局長	漆谷 和彦
	書記	大畑 真紀

4 各委員の所感

- (1) 1月28日 鳥取県西伯郡日吉津村
議会広報編集・議会報告会等について

(報告者 松石 健児)

広報誌「議会ひえづ」は昭和56年4月創刊で、現在157号を発行している。編集指針は「住民に読んで頂くことを念頭に、読みやすく、分かりやすく、親しまれるものを目指す」としている。まず表紙はカラーで村民の活動や日常のひとこまを生き生きと映し、注目を引く。文字の大きさも12ポイントを基本としているが、行間に余裕があるからか、非常に読みやすい印象を受けた。また、写真も大きく分かりやすい記事に専念している。

平成24年に編集マニュアルを作成し、随時更新を行いつつ編集力の向上に努めている。村内の自治会や事業所に出向き取材する「村民インタビュー」記事は、議会広報を読んでもらうための一手段として大変参考になり、議会との交流の向上にもつながると感じた。一般質問のページはひとり1ページ確保されており写真も大きく内容も分かりやすい。

議会報告会「議会と語ろう」は毎年開催されており今年で10年目。動員拡大の課題解決策として、昨年度から議員を数班に分けて7地域で開催するなど広報と併せて広聴にも力を入れていることが伺える。

今回の研修において、「議会ひえづ」は評価されている通り、見やすさ、編集力に長けており、町民に配慮された工夫が随所にみられる。「基山町議会だより」においては、まだまだ文字数が多く、短文での表現力と写真での訴求力を養う必要があると感じた。一般質問の議員一人に1ページの割り当ては基山町でも是非導入したい。また、議会報告会も日吉津村議会のように地域の特性、問題に対応できるよう、開催場所を複数選定する方が効果的だと感じた。

(報告者 大山 勝代)

基山町の議会広報の創刊は平成15年だが、日吉津村の創刊は昭和56年で40年も前からの歴史があることに敬意を表したい。表紙写真「議会 ひえづ」は村民の日常の様子がアップで表現されていて、1,200世帯ほどの小さい村の人と人とのつながりが感じられた。中身も同様、ふんだんに掲載された写真は多くの村民が登場していることが特徴的だと感じた。そして「村民インタビュー」として村の事業所や自治会などに出かけ、直接話を聞いての記事が親しみのある内容になっている。基山町でも参考になるのではないかと感じた。

他町村の議会広報誌を見る時いつも気になるのは一般質問欄の記事だ。ここはひとり1ページ、「村政に 喝」の見出しが目に飛び込んできた。基山町の場合、今はひとり半ページだが全員質問をするので1ページにすると12ページを費やすことになり、現行のページ数では他の記事が縮小されることになる。日吉津村は部数1,300部で予算は69万円。(基山町6,800部で68万円) 基山町の議会広報は他の町村と比べると低予算でできていることがわかる。

各地の広報誌を募集しての「コンクール」ではカラーが多く使われている。そして一般質問はひとり1ページだ。町民に親しみのある内容の充実した議会広報を作成し、これからも改善を目指していきたい。

(報告者 重松 一徳)

村議会は定数10人、広報広聴常任委員会は6人で定例議会ごとに「議会ひえづ」を発行している。

まず、特徴点として表紙の写真が村民の活動や日常を映し、親しみがある冊子に仕上げている。各ページには写真を多く用い、文字のポイントも「基山町議会だより」よりワンポイント大きく、大変読みやすい。高齢者に配慮したレイアウトになっている。

一般質問は各議員に1ページが割り振られ、写真を2枚用いてよく整理されている。一般質問の最初のページに「村政に喝」と大きく表記されているのは村議会の町政に対する心構えを示しているようで好感が持てる。

「議会ひえづ」の発行は昭和56年4月、「基山町議会だより」は平成15年5月。日吉津村議会は基山町議会より約20年も早くから議会だよりを発行していることになる。

早く発行した理由を伺ったが、過去の経緯は不明だった。しかし住民に情報公開を早くから取り組まれたのには理由があるだろうし、議会改革が早い時点で取り組まれた証左だと思う。

特集記事として、「村民インタビュー」が1ページ割り振りされている。議

会が地域に足を運び、直接交流していく事は重要なこと。基山町でも参考に出ればと思う。

以上、日吉津村広報広聴常任委員会の皆さんと意見交換する中で、特に感じたことは、常任委員会のメンバーに議長、副議長が入り、議会全体として「議会ひえづ」を発行している点は見習いたい。また、日吉津村発行の広報と違う観点から「わかりやすさ」「親しみやすさ」を特記したい。

(報告者 末次 明)

議会広報は文字も大きく、記事内容も読みやすく単色の色使いも温かさを感じさせ、広報広聴委員の真摯な取り組みがうかがえる。鳥取や島根などの地域は他の市町村と競い合うように「読みやすさ」「読者目線」を貫いてある。

また、議会の重要な役割でもある住民の声を聴くことについては、コンパクトな面積に関わらず昨年も7地域に出向いて「ぎかい懇談会」を開催されている。出席者の人数にこだわらず基山町議会も出向いていくことが必要だと痛感した。

(報告者 天本 勉)

平成24年度にマニュアルを作成し、適時修正を行いながらマニュアルにそって編集している。

一般質問の掲載については通告順にしており、1行の文字数を12文字から10文字に減らし、1ページ全体の文字数を950～960文字とし、写真についても2枚で大きさを決めており、各議員の責任編集としている。

構成についても住民の代弁者としてコンパクトに伝わるようにしている。なるべく文字数を減らし、「いかに視覚に訴えるか」を基本に住民に関心をもってもらおうよう読みやすい編集に努めており、本町の編集方針と同様であると再認識した。

議会と語ろう会については、毎年11月に中央公民館で開催しており、今年で10回目である。ケーブルテレビでも放映、参加者は20名前後で半分は公務員である。

若者や女性の参加が少なく、どうやって人を集めるかが課題で、昨年度から議員を数班に分けて7つの自治会に出向くようにし、録音はしているがケーブルテレビ、カメラ撮影は止めた。

住民から出た意見については、執行部との情報共有ということで村長に渡している。

本町についても、多くの町民の意見を聴くことを基本に検討が必要と感じた。

(報告者 中村 絵理)

日吉津村の広報誌「議会ひえづ」は、昭和56年に創刊され現在157号を発行している。中を開いてみると、字のポイント数、掲載写真も大きく、最小限の文章でまとめられており、一読して非常に読みやすい印象を受けた。

ページ配分等の構成は、作成されたマニュアルに沿って作業が行われ、特集記事も季節ごとに題材は決まっているが、特に問題点は無いと回答を得た。

記事の内容は、住民の関心をいかに引きつけるかに重点を置き、読んで分かりやすい文章を意識して作成、また、視覚に訴えるため、文字数を極力少なくする努力をしているそうである。ページの色も季節によって変える(通常はオレンジ、春はピンク)等、優しさを感じる議会だよりである。

一般質問の掲載は、各議員各々1ページが割り当てられ、掲載写真は必ず2枚、文字のポイント数は大きく、字数も極限まで削って見やすさを追求しているとの事、補正予算や議会懇談会の内容も一目で分かるような工夫が随所にうかがえる。是非参考にすべきであると感じた。

また、議会懇談会を各公民館で開催し、各地区ならではの生の声を掲載する等、今後の基山町「議会だより」作成について、大いに学びの深い視察研修であった。

(2) 1月29日 島根県邑智郡美郷町
議会広報編集・議会報告会等について

(報告者 松石 健児)

「美郷町議会だより みさと」は紙面の表裏はカラーで中は二色刷りと基山町議会だよりと同じだが、ページ数は基山町が16~18ページに対し、18~26ページと内容によって柔軟に調整していた。基山町も一般質問を議員一人に対し1ページ割り当てれば、同様のページ数になるだろう。一般質問の各ページそれぞれに担当議員の「議員のつぶやき」を入れているところは、人間性が垣間見れて面白い。写真も躍動感が感じられた。住民の声や情報を取り入れているところも読まれる工夫がなされている。編集においては市販の編集ソフトを活用し構成力を向上させると共に、新聞用字用語集で「ひらがな」や「漢字」の変換の有用性に注意したり、文言チェックを行っている。また、議会では既に議場ICT化によるタブレット端末を導入しており、「美郷町議会だよりみさとNo.54号」ではQRコードを読み取ることでスムーズに議会だよりや議会の録画中継もスマートフォンから見る事ができる工夫もされていた(生中継も視聴できるとの事)。その他、4年前より「美郷町議会だよりモニター」制度を導入し、町民からの意見を収集することで、より魅力ある議会だよりの発

行に力を注いでいる。

議会報告会においては、議会や行政の責任を問いただし非難する糾弾会としない、居心地の良い空間づくりに配慮したワールドカフェ方式で開催され、町民とのスムーズな会話を心掛けているとの事。

今回の研修において、「美郷町議会だより みさと」の編集では、委員会の創意工夫の集大成であることがよく感じ取れた。写真も日吉津村と同様にキャプション無しでも内容、問題点に訴求できるようなものが多いところは見習うべきだろう。編集に関する工夫が随所に見られ、視覚的にも非常に読みやすく、当委員会でも参考にしたい。編集ソフトに関しては、まったく同じものを私も個人的に利用しているが、委員会全員で共有するには課題も多くある。ただ、一度このようなソフトに精通できれば、スピーディーかつ効果的な編集が可能となり、各委員の構成内容にばらつきが生じずまとめやすくなる。今後の導入検討課題としたい。議会だよりモニター制度は予算面から検討しなければならないが、第三者の目線として、定期的に町民に意見を伺うことは非常に大切なことなので導入したい。

議会報告会においても町民に配慮した工夫がみられ、会場も2地域で行うことにより意見収集の広がりを感じる。基山町議会では現在、年1回指定場所に町民を動員する方法で開催しているが、今後は出向く議会へと移行することが本当の意味での広聴になると感じた。早急に改革する必要がある。

(報告者 大山 勝代)

美郷町の広報担当の議員の方との話の中で、担当する委員長に相当な負担がかかっているように感じた。2,700部数発行で、予算は132万円。さすが、コンクールに入選するだけのことはある。「美郷町議会だより みさと」全26ページ(基山町16ページ)議案審議はもちろん、写真の多さ、見出しの大胆さ、一般質問ひとり1ページ、町民登場、議員研修など議会活動の様子がよくわかる広報誌だと感じたことだった。

(報告者 重松 一徳)

美郷町の広報誌「美郷町議会だより みさと」は、町村議会広報コンクールにおいて奨励賞の「言語・文章部門」を受賞するなど、全国的にも注目を集めている。

特徴点として編集ソフトを活用し、全体的に町民が読みやすい工夫が随所にされている。例えば、見出しが大きく写真やグラフを多く用いている。これにより余白のバランスも均等がとれて読みやすくなっている。一般質問の顔写真も左右の配置を考慮した撮影になっているし、写真を2枚配置するなどメリハ

りのある紙面になっている。基山町も今後は編集ソフトを活用し、広報広聴常任委員間で紙面作りのノウハウを習得する必要がある。

美郷町は広聴広報常任委員会と名称にも工夫されている。基山町は広報公聴であり、広報と広聴の位置付けが逆になっている。美郷町はまず町民の声を広く聴く事を主眼に置いた広報誌作りをされている。

一般質問の紙面に「議員のつぶやき」というコーナーを設け、議員の感想や独り言風な文章で面白い企画になっている。ともすれば、硬い文章ばかりになる広報誌において面白い発想だと思う。

「議会だよりモニター」制度を活用されている点は、是非基山町も参考になると思う。美郷町議会モニター要綱では厚生・公平を期するために意見や回答、又は情報等を提供したモニターの氏名は原則として公表しないと明記している。この点を一番参考にしたいと思う。

美郷町の取り組みは広聴広報常任委員会メンバーの不断の努力の積み重ねを強く感じる。町民への情報発信の重要性を議会活動の柱に位置づけられている。基山町議会だよりも紙面作成がマンネリ化した内容になり、「議員が言いたいこと」と「町民が聞きたいこと」にギャップが生じている気がする。議会全体として、改めて「議会だより」が果たす役割を明確にしていく必要がある。

基山町の「議会だより」は全国コンクール等での受賞はないが、読みやすいように創意工夫を積み重ねてきた。ただ、ページ数の関係で一般質問はひとり半ページしか割り当ては出来ない。与えられたページ枠内で改善する余地はある。基山町「議会だより」も全国から注目されるよう努力を重ねていきたい。

(報告者 末次 明)

議会の活動をいかに丁寧に町民に伝えるかに苦心されており、ポイントを絞りわかりやすい紙面になっている。

議会だよりに使われる議員の顔写真には動きがあり、基山町も見習いたい。議会広報は町の広報とは違うため広く町民に「違い」を認識していただく必要がある。

美郷町議会では常に現状の紙面に満足せず広報コンクールに出品し、批評を聴くことや積極的な視察受け入れをして新陳代謝が良好に行われているのが感じられる。基山町議会でも全てにおいて現状に満足せず真摯に他の議会の良いところは見習いたい。

(報告者 天本 勉)

ページ数については、議会初日に質問者を確認し偶数か奇数かを決定し、質問者の顔写真は都度撮影し、上半身で動きのあるものを掲載している。

編集については、編集ソフト「パーソナル編集長」「記者ハンドブック」を活用しながら、紙面のイメージを速やかに出力し編集している。また、編集会議は一回当たり7回程行っており、各戸配布は町広報に合わせている。

編集委員のスキルアップのため全国の研修会など積極的に参加している。

議会だよりモニター制度は4年目となるが、日当3,000円で年2回ほどお願いしている。

読み手の気持ちを考え、まずは「目に止まる」紙面づくりを心がけている。

議会報告会については、行政や議会の糾弾会とならないように努めており、各意見を付箋に書くようにしている。現在・未来の話を中心に、これからの課題や将来について意見を聴くようにしており、進行係は内容を分かりやすく整理、共有、できれば結論を導き出すように努めている。

なるべく文字数を減らし、「いかに視覚に訴えるか」を基本に住民に関心をもってもらうよう読みやすい編集に努めており、本町の編集方針と同様であると再認識した。

本町についても、多くの町民の意見を聴くことを基本に検討が必要と感じた。

(報告者 中村 絵理)

美郷町の広報誌「美郷町議会だより みさと」の創刊は平成17年、平成15年創刊の基山町「議会だより」より後に創刊された議会だよりである。

「町民に、いかにして議員活動を分かりやすく伝える事が出来るのか」をモットーに、大変意欲的に作成されおり、「誰にもわかりやすく、読みやすい文章表現」、「専門用語はできるだけ使用しない」といった配慮がなされている。

編集は、編集ソフト「パーソナル編集長」を使用し、印刷と校正、構成のロスを最小限に抑えているところは特筆すべきであろう。

見出しは大きく、また、難しい予算案件も円グラフや写真を使い、町民にも分かりやすい配慮がなされている。また、町内で頑張っている人を紹介する企画や四コマ漫画も新鮮に感じた。伝える広報誌ではなく「伝わる広報誌」にこだわる姿勢は大いに見習うべきものがある。

一般質問は議員各々1ページ、議員の写真は毎回替える、「議員のつぶやき」のコメント欄を挿入するなどの工夫も面白い。

また、議会だよりの企画、編集に関し、町民から意見や要望を吸い上げる「美郷町モニター要綱」を設置、町民からの情報をいち早く議会だよりに反映させようとする取り組みも行っている。

今後の基山町「議会だより」編集に携わる者として、大いに触発された視察研修であった。

5 まとめ

今回の視察で、編集委員一人ひとりが伝える側として、記事の内容を理解し、タイトルや説明文に反映させる力をさらにつけていく必要があると感じた。少しでも多くの町民の方から「分かりやすい」「読みやすい」という声が聞けるよう、研修でいただいたヒントや編集時の経験談を今後の議会だよりの誌面作りに生かしていきたい。

また、現在の町民との意見交換会の形も、開催場所と回数を含め、もっと柔軟な発想で多くの意見をいただけるように取り組みたい。今回、委員会として所期の目的は達成できたと思う。

広報広聴常任委員会委員長 松石 健児